

調

報

第 42 号

調 布 市 文 化 協 会

調布市小島町 2-33-1 調布市文化会館たづくり 6 F

## 調布市文化協会とともに歩んだ14年

財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団

事務局長 大澤 一仁

財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団は、平成7年3月31日に東京都のふたつの部局より許可を受け、スタートいたしました。

当時、人々の価値観は「もの」から「ところ」へと変化し、潤いとゆとりそして癒しといった方面に向けられ、その要望も多様化、高度化しており、市民の活動や要望に的確にこたえていくための対応が求められており、その実現のための組織として当財団が設立されました。

新たな組織体制のもと、文化会館たづくり及びグリーンホールを拠点に事業展開を図るとともに、両施設の管理運営に努めてきました。

財団が企画・実施する事業は、大きく3つの柱からなり、芸術文化、コミュニティそして生涯学習事業になります。

この3つの事業のうちの、とりわけ、生涯学習事業の各種講座について、文化協会が大きな担い手となり、特に、実技講座の実施のための講師の派遣に積極的に関わっていただき、現在の市民カレッジの底辺を築いていただきました。

また、文化振興事業として、文化協会が設立以来53回にわたり長い歴史を築いた「市民文化祭」

は、財団設立以降、財団の中心的な事業のひとつとして位置づけ、その運営主体を今日まで担っていただいております。

財団は、文化協会の一時(いつとき)の歴史に関わり、共に事業に携わらせていただいたこと到大変感謝いたしております。ありがとうございます。

時代は刻々と変化しており、そのスピードは速まり、時代のニーズをいかに受け止めていくかが、今後課題となっていくことでしょう。共に財団と文化協会が役割分担をしっかりと持って、連携し、今後の事業展開に望んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

以上

大澤事務局長は、調布市の職員として(仮称)市民文化プラザ建設室に在職し、平成7年・文化会館たづくり開館に奔走された方です。

当時より文化協会活動を理解され、昨年4月に再び事務局長の要職に就かれた契機に、現在の文化協会に対する思いを書いていたいただきました。

(会長 高岡宮子)

平成二十年 度 事 業 報 告

平成20年

- 4・8 文化協会役員会
- 4・25 第42回定期総会(懇親会)
- 19年度事業会計報告
- 20年度事業計画・予算
- 5・1 文化協会役員会
- 6・1～2

岡崎市文化協会との研修  
交流旅行(参加31人)

第1回文化協会理事会

市長と語る懇談会

6・10

7・15

8・12

8・28

8・31

11・28

12・22

- 木島平村芸術文化協会との交流(参加28人)
- 第2回文化協会理事会
- 「調布よさこい」への協力
- 模擬店出店・役員担当
- 民謡舞踊好友会100人、ハワイアンフラ協会100人舞踊参加協力。
- 文化協会役員会
- 第3回文化協会理事会

平成21年

- 1・14 財団と役員との懇話会
- 1・23 第12回生涯学習講演会
- 講師 金田一真澄氏
- 「レトリックはことばのトリック」(参加218人)

第53回調布市民文化祭実行委員会報告

平成20年度

4・20～30 文化祭参加団体申込受付

5・9

第1回実行委員会

参加団体確認

開催日程と会場割 他

第2回実行委員会

調布市テーマ・予算決定

ポスター・総合プログラム作成準備

市報原稿確認

調布市民文化祭運営規約

(4・1・二部改正)

第3回実行委員会

7・11

1・26 文化協会理事会新年会

2・20 会報42号発行

3・5 文化協会役員会

3・12 第4回文化協会理事会

3・19 HP内覧会

開会式・プラザ内容決定

(29団体・3公民館参加)

総合プログラム原稿確認

申込受付(86人)

第4回実行委員会

ポスター配布

第5回実行委員会

総合プログラム配布

「開会式」役割分担への協力について・実施報告

書・写真・プログラムの提出について

第53回文化祭開会式

10・16

10・16

なお、期間中に文化協会主催・

(財)調布市文化コミュニティ振興財

団共催で、実技講座10団体が実施

され、参加人員は558人であった。

「式典・アトラクション」

くすのきホールにて

10・16～11・16 市民文化祭開催

10・18～19 文化祭プラザ

市役所前庭にて

工芸・囲碁・将棋・奇術

の実技、実演コーナー

エスベラント・アマチュ

ア無線の展示・発表

フラダンス、箏演奏の野

外ライブ

10・25～11・2 3公民館地域文

化祭

第6回実行委員会報告会

参加状況報告、会計報告

次年度の検討・要望など



## 調布市文化協会主催 第12回生涯学習講演会

副会長 宮本 正章

テーマ 「レトリックはことばのトリック」

——人の心を動かすことばの魅力を探る——

講師 慶應義塾大学教授 文学博士

金田一真澄氏

平成二十一年一月二十三日、国語学者金田一京助先生の孫で、言語学者金田一春彦先生の長男であり、NHKロシア語講座でおなじみの金田一真澄先生をお招きして表題のテーマでご講演をいただいた。内容は以下のものである。

レトリックは、今から二千五百年前、今のイタリアのシチリア島で生まれたことばの技術である。僭王の失墜によって、民主主義となり、市民の土地所有権を市民法廷で争うこととなった。その中で陪審員を説得する術としてレトリックが誕生・発展した。さて、相手を説得するには、ど

んな手法があるだろうか。それには三つの手法がある。

一、理屈法（ロゴス）内容に合わせて適当な理屈を選択して相手を説得する。

二、権威法（エートス）超有名人や信頼できる人を出して相手を信用させる。

三、感情法（パトス）情に訴える。同情、羞恥心、恐怖、不安、希望、共感を呼ぶ。

である。日本では、自分を売り込むことには、あまり積極的に進めることではないという文化であったため、それほど重要視されなかったが、ヨーロッパではギリシャ・ローマ時代に総合的な学問となり、永らく教育科目にされていたが、中世以降、科学の発展とともに、レトリックは修辞学（文章表現）中心となり、曖昧さ、装飾的で不正確な表現であるとされて、十九世紀にはすっかりすたれてしまった。しかし、二十世紀には不死鳥のように蘇ったのである。現在で

は、日本の外では、重要な学問として、教育されている。

ことばは意味を伝えるだけではなく、聞き手の心を動かすものである。駄洒落は日本の文化ともいえる、レトリックのひとつ。頭を柔らかくして、レトリックとうまく付き合せて、笑顔の絶えない豊かな暮らしを楽しみましょう。

一時間半の講演では、日本中で使われているたくさんの方々のレトリックの例を挙げ、それぞれに丁寧な解説と分析がなされて、わかりやすく、しかも楽しく、あつという間に過ぎた素敵な講演であった。このレトリックを生かしていくと、我々の周りが明るく楽しくなり、うである。また、人の心を動かせる魅力的な話術も身につけられようである。普段レトリックを考えると頭の回転も良くなり、ボケ防止にもなるようで、振り込め詐欺にもかからないなど、いろいろな面でこれから役に立つ素晴らしい講演であった。

第53回調布市民文化祭は、右記のテーマと期間で開かれました。

参加団体は、大会・祭表部門21団体と展覧・展示部門8団体・そして東部・西部・北部の3公民館地域文化祭（10月25日(土)～11月2日(日)）が各会場で熱心に趣向をこらして行われました。

10月16日の文化祭開会式は出席者数七四三名で、「くすのきホール」で立見

### 第53回 調布市民文化祭

## 「あなたから 未来へつなぐ 調布の文化」

2008年10月16日(木)～  
11月16日(日)

開会式アトラクション  
「清塚信也ピアノの夕べ」

(文化祭プラザ  
10月18日(土)～19日(日)  
於調布市役所前庭)



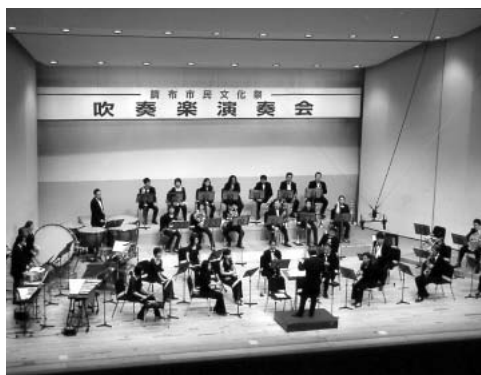
バレエ・フェスティバル (調布洋舞協会)



音楽祭 (調布市音楽連盟)



書道連盟)



吹奏楽演奏会 (調布市青少年吹奏楽団)



箏・三絃・尺八による三曲演奏会 (調布市三曲協会)



市アマチュア囲碁連盟)



社交ダンスパーティ (調布市社交ダンス連盟)



バリアフリーフェスティバル (アート&ミュージック)

者が出ました。アトラクションでは清塚信也氏の幻想的なピアノ演奏に一同酔いしました。

今年の観覧者数は発表部門一四、一〇〇名、展覧展示部門一五、〇七八名でした。また10月18・19日調布市役所前庭で開かれました文化祭、プラザも本部テントでのコーヒー販売や、美術工芸、マジック、将棋、囲碁、無線等の実技、エスペラント展、実演コーナーでの市民参加、野外ライブとしてハウイアンフラ協会によるタヒチアンダンスや、調布三曲協会による尺八とお琴の演奏が行われました。市民の皆様にご参加下さる事を願いながら、今後一層頑張ってお参りたいと思います。

### 調布市民文化祭に寄せて

調布市文化・コミュニティ

振興財団事業課 渡部和哉

第53回調布市民文化祭は、過去にない参加者と盛り上がりの中に閉幕しました。ひとえに実行委員会をはじめ各運営団体、また市民の皆様の一入ひとりのご協力あ



いけばな展 (調布市茶華道連盟)



お茶会 (調布市茶華道連盟)



書道展 (調布市書)

つてのことと感謝に絶えません。今年のテーマは「あなたから未来へつなぐ調布の文化」。各会場で子どもたちの活躍が目立ち、まさに「未来へつなぐ」であったように感じました。調布の文化は親から子、子から孫へと確実に受け継がれています。また、市民文化

を通して交流が生まれ、人と人をつなぐ文化祭でもありました。不安な世の中だからこそ、人と人をつなぐ文化を大切に育んでいかねばなりません。私は文化祭が今以上に市民生活に欠かせないものになると確信しています。



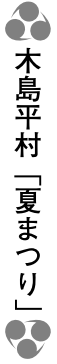
文化祭プラザ



文化祭プラザ 本部テント



市民囲碁大会 (調布)



# 十八年目の木島平村芸術文化協会との交流

調布市文化協会会長 高岡 宮子

豊かなる千曲（川）の流れ西に見て、高社山（たかやしろ）ゆるやかにたなびくところ、

木島平村歌は文字通り自然溢れる大地を現して始まります。

木島平村芸術文化協会との交流は、調布市と木島平村の姉妹都市盟約五周年を記念し始められたもので、今回18回（年）目の交流を実施しました。18年前の交流当初は、バスで八時間位の行程も、長野冬季オリンピック開催を契機に長野自動車道が開通し、五時間弱と距離が縮まり、お盆を迎えた8月12日／13日・一泊二日の快適なバスの旅が始まりました。

## \*平成の名水百選「龍興寺清水」

折しも平成20年6月に、環境省・平成の名水百選に、木島平村の「龍興寺清水」が選定され、外国人や県外からの来客も多く訪れる中、

まるやかな・癖の無い名水で喉を潤しました。

## \*交流・懇親会

「元気でしたか?」「道路の渋滞は?」まるで我が家に帰ったような出迎えの中、宿泊するホテルシユースベルクでの昼食を共にしながらの交流は、調布市と木島平村の皆さんと対面形式で座り、木



ご挨拶される山本会長

島平村芸術文化協会山本会長の挨拶に始まり、参加者自己紹介や、夏祭りの「からす踊り」の由来などを話題に、村の取り立て野菜で作られたヘルシー料理に舌鼓……。

交流会の最後は調布市が『木島平村歌』を、木島平村が『調布市歌』を歌い和やかに終了しました。

## \*木島平村「第24回夏まつり」

毎年お盆の時期・一夜限りの夏まつりは、ケヤキの森公園・中央グラウンドで行われます。

調布市からは市長、議長、職員の方々と、文化協会より28人・総勢約百人の参加者です。

森の中の広大な中央グラウンドには、村の各地区ごとに趣向を凝らした手作りの灯籠や、仮装した人々が集い、同時に幾重もの踊りの輪となり、「木島平どどんか」「調布音頭」「盆じゃもの」「からす踊り」と生演奏での盆踊りです。

中でも「調布音頭」は、双方・文化協会の交流10年を経過してから、民間同志の話し合いで実現し



生演奏で楽しく盆踊り

たもので、今では木島平村の方々も、楽しく上手に踊っています。

平成20年11月には、『米・食味鑑定コンクール』二百数十種の中で、木島平村米ブランド研究会の三点が特別優秀賞を受賞するなど「水と緑」豊かな姉妹都市・木島平村は調布市民の故郷です。

冬は二メートルにも及ぶ積雪、やがて夏には澄み切った夜空の下で、調布市と木島平村の皆さんとの再会が待っています。

撮影：前田 豊（写真連盟）

## 実 技 講 座

## 『タティングレースで作るドイリー』

調布工芸美術協会

八 木 優 子

昨年6、7月にわたり実技講座を開催させていただきました。

「タティングレース」という聞きなれない名前に興味を示していただけるか不安でしたが、定員を上回る参加者数となりました。終了後、「もつとやってみたい」という方々がいらっしやり、現在も定期的に集まっています。

レースは、細かい作業と敬遠されがちですが、素材やデザインにより手軽な作品も作れます。市民文化祭等の作品展で紹介できるよう努めたいと思います。

今回、私自身人の輪が広がり、つながりを有難く感じました。今後も、人とのつながりを大切にしていきたいと思えます。

## 『歌は唄うな言葉は語れ』

調布市歌謡同好会連盟

嶋 谷 隆 治

第11回実技講座を7月4日(土)11日(土)に昨年同様、藤平裕美氏(クラウン歌謡学院 P K K 講師)で実施しました。目的はリズム、発声、表現力、を重点にレベルに合わせて唄える楽しさを習得出来るように、詩を朗読、聞く人の心に感動を与えられる表現力、ピアノ指導でリズム、発声を主体とします。

歌手のもの似ねをせずに自分流の個性で歌を表現する事が今回の目標です。今回の講座で歌の愛好者が一人でも増え、市民文化祭に出場くだされば本当にうれしい限りです。

数年来受講された熱心な参加者に敬意を表し、微力ながら調布市文化協会事業の一助となれば幸甚です。



## 『トライ&amp;ステップアップ講習会』

調布市社交ダンス連盟

泉 梅 信

9月1日、8日の2日間社交ダンスに初めてトライする初心者の人へダンスの手ほどきを、経験者の方には今以上に美しく楽しく踊るにはどのようにダンスの基本を学んだら良いかを目的とする講習会をプロ教師2名の指導のもと初心者25名、経験者126名に挑戦してもらいました。



初心者には経験者をパートナーに基本ステップの手ほどきを受講しダンスの楽しさと素晴らしさを味わってもらい、経験者には姿勢、ホールド、音楽の捕え方の注意、確な体重移動の徹底等を学びダンスを生涯学習とする愛好者になろうと誓い、2日間の有意義な講習会となりました。

## 『初心者のための詩吟教室』

調布市吟剣詩舞道連盟副理事長

神 賀 秀 明

10月4日、11日、18日の三回いづれも土曜日に実技講座を持たせていただきました。

今回の参加者は延24名でしたが、皆始めてとは思えない程、最初から声も大きく節廻しもすぐ覚えられて驚く程でした。

60歳台、70歳台になられても新しいことにチャレンジするということはすばらしいことだと思えます。最近の世相を考える時、日本人の美徳である礼と節を忘れかけているように思います。

詩吟は漢詩を学ぼうちに知らず知らず人生訓を身につけて心に栄養を与えられるものなのです。

このような時こそ次代を担う青少年に吟詠を伝えていきたいと願っております。

## はじめて弾く大正琴

調布市大正琴連盟

大坪 恵美子

文化協会主催の実技講座を11月16日、23日、実施しました。最初の日は朝から雨で心配しましたが参加された方は文化祭及び、市報を見ての申込みで、大正琴ははじめてで、少し不安もあった様です。基本の指はこび、音符の説明等、「蝶々」、「夕やけこやけ」を少しづつ弾ける様に指導し、次回まで練習用にお琴を持ち帰っていただけ、二回目の時は「さくらさくら」まで弾ける様になり、とても楽しんで頂けました。

昨年は第23回静岡での全国大会に琴伝流の仲間が、心を一つにして春のメドレーを全員で弾き、ギネス記録を達成しました。これからも大正琴の美しい音色、アンサンブル奏法を、広めていきたいと思えます。

## クリスマスのオブジェ

調布市フラワーデザイン協会

高部 フミ子

11月28日、12月5日の二回にわたり「クリスマスのオブジェとアレンジメント」の講習会を実施しました。

フレッシュフラワー・生花でもいかに長持ちできるかと、素材はゴールドクレスト(コニファ)を使用し、シンプルながらもモダンな作品の講習を行いました。受講者からは「二作品共・花屋さんではあまり見掛けないデザインで花を替えるだけで正月用にもできるとは、何だか得したみたい」と感激されました。長年講師活動が続いている中で、この言葉が何にも増して嬉しく思える瞬間です。今後も多くの皆さんに、フラワーデザインの素晴らしさ・楽しさを広めて行きたいと思えます。ありがとうございます。

## 「透明水彩画を楽しむ」

文化協会実技講座 運営美術協会

大滝 明

1月18日・25日に、協会会員大滝 明を講師に、たづくりで開催されました。定員25名に対して45名の応募があり、初心者対象として33名の出席を得て開講しました。初めに高岡会長より励ましの挨拶を頂き講義に移り透明水彩の妙味を自作とおし解説してみました。水に滲む、暈す水彩の面白さを堪能して頂き実技に入りました。

初心の方には当方で用意した用具を使用してもらい、りんご、バナナの写生に入り、6号の画用紙に、協力頂いた8名のアドバイスで筆を持つ手も緊張さがあつたものの、色が塗られて行きました。2回目はカボチャ、人参、かぶ等を各テーブルに並べ、バックマデ色を塗り込む完成作品の仕上げに挑戦、全員完成しました。初めての人もやれば出来ることを感じた講座でした。

## IT世界の表舞台に！

地球の裏側から受講者が現れる？

門 傳 良 男

今や世はパソコンや携帯の時代です。何を調べるにもまずはネット検索。おいしいお店、食べ物、イベントや会場探し、品物、言葉の意味、目的地までの乗り継ぎと所要時間や出発時間等。これはパソコンや携帯を持っている人たちが行っていることです。市民や近隣にお住まいの方が、文化活動や、何かを勉強したり仲間を探したい時、携帯やパソコンでネット検索をすると、調布市文化協会や加盟団体の内容が検索という網に引っかかります。関連する言葉を世界中から見つけてくると言うことで、極端に言えば地球の裏側からでも、調布市文化協会とその加盟団体が探せるし、受講者が来るかもしれないという状況が生まれるわけです。そんな可能性を秘めた今のIT社会に、調布市文化協会が正式に顔を並べたわけです。